九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

怡土・志摩の村を歩く

楠瀬, 慶太
九州大学大学院比較社会学府日本社会文化専攻 : 修士課程

浦谷, 拓
九州大学大学院比較社会文化学府 : 博士後期課程

木戸, 希
九州大学文学部人文学科歴史学コース

田中, 由利子
九州大学大学院比較社会文化学府 : 博士後期課程

他

https://doi.org/10.15017/1655044

出版情報：2009-03-01. 九州大学大学院比較社会文化研究院服部英雄研究室
バージョン：
権利関係：

調査協力者一覧（敬称略、順不同）

●福岡市

箱崎　黒石和夫（昭和 2 年生）、松井俊久（昭和 4 年生）　ほか

能古島　丸尾幸信

今津　進藤三男（昭和 7 年生）、大歯大蔵（昭和 3 年生）　ほか

宮浦　榎田好喜（昭和 7 年生）　ほか

西浦　瀬戸英男（昭和 6 年生）、柴田三右衛門（大正 7 年生）　ほか

玄界島　玄海老人いこいの家にお集まりの皆さん　ほか

●志摩町

桜井　佐々達彦（昭和 12 年生）、臼杵孝道（昭和 13 年生）、神田利安（昭和 13 年生）、神田太市（大正 9 年生）、月形忠義、中村吉太、桜井勤（大正 7 年生）、洞勇一夫妻（昭和 6 年生、昭和 12 年生）ほか

野北　西崎重信（昭和 15 年生）、武藤賢助（昭和 5 年生）、松尾儀一（大正 12 年生）、平野鉄助（大正 4 年生）　ほか

姫島　森勘一（昭和 14 年生）、吉村マサヨ（大正 12 年生）、西川松枝（大正 14 年生）、須田幾雄（昭和 6 年生）　ほか

芥屋　小金丸正陽（昭和 25 年生）、柴田浅海（大正 9 年生）、奥博（昭和 14 年生）、奥あい（明治 40 年生）、吉村孝夫（昭和 15 年生）、平地康登（昭和 31 年生）、吉村周祐（昭和 11 年生）ほか

岐志　畠中良治

船越　小金丸智

久家　青木勇、小川泰夫

津和崎　中村敬一郎（昭和 5 年生）、中村宗市（昭和 12 年生）、中村重喜（昭和 21 年生）

松隈　林義助、小川義人、中隈久太、中隈正喜　ほか

●前原市

王丸　谷口敏春（昭和 3 年生）夫妻、谷口哲雄（大正 7 年生）、家宇治幸雄　ほか

川原　薦田博文、矢野よしお（大正 7 年生）、矢野たつお（大正 11 年生）ほか

西堂　高島侃二（昭和 4 年生）

山北　吉田稔母（大正 8 年生）ほか

瑞梅寺　井上蔵門（大正 15 年生）夫妻、井上保（昭和 4 年生）、井上龍介（大正 12 年生）、山崎静男夫妻、井上改助（昭和 6 年生）

高上　清水和人　ほか

飯原　重松憲一（昭和 6 年生）夫妻、有富亨夫妻、波多江としみ（昭和 10 年生）夫妻　ほか

長野　筒井正雄（昭和 10 年生）、上原正義・厚子　ほか

白糸　津田一登（昭和 11 年生）　ほか

川付　武内公文（大正 14 年生）、原田利美　ほか

瀬戸　福井鉄基夫妻　ほか

●二丈町

波呂　前田治男　ほか

長石　志渡澤とくお（大正 11 年生）

満吉　和田義隆、田中耕策（昭和 7 年生）　ほか

上深江　青木善男、中原みつお　ほか

一貴山　吉冨孜（昭和 4 年生）、久我英登（昭和 9 年生）　ほか

福吉浦　梅本昭太郎妻（昭和 7 年生）、長田三郎（大正 10 年生）　ほか

鹿家浦　浜尾勝一（昭和 19 年生）ほか

編者あとがき

2007 年 4 月、私は学部時代に研究していた中世博多の周辺の怡土庄を対象に荘園研究をやろうと志し、九州大学比較社会文化学府修士課程に入学した。しかし、修士課程 1 年のほとんどは地元高知の大忍庄の研究に費やすこととなった。

実質的に怡土庄の調査を始めたのは就職活動の終わった 2008 年の 8 月から。猛暑の中、キャンパスのある六本松から自転車で怡土・志摩の集落へと向かったが、毎日のように降る夕立に悩まされ、夏はあまり調査が進まなかった。その結果、涼しく天気もよかった秋から冬にかけてが、主な調査期間だった。ほとんどが背振山麓の集落で、自転車をこぐのが大変だったが、集落から見た糸島平野の田園風景や夕日はどこも美しかった。

この時、私の近くにいた各分野の学部生・大学院生の中には、怡土・志摩地域にすでに調査で足を運んでいる友人達がいた。九州大学の移転地である怡土・志摩の調査を何とか学際的な研究にしたい。そういう思いで、友人達に協力してもらい、本書が完成した。編集作業では、執筆者の足並みがそろわず、難儀することもあった。また、編者の不手際で内容に統一性がない所や、認識不足で誤った部分もあるかもしれない。これらについては、今後御批判・御指摘をいただけるとありがたい。

本書では、未調査だった怡土・志摩地域の集落について報告したが、まだ調査されていない集落が多くある。また、本書が残した課題も多い。九州大学の元岡地区移転により、「怡土・志摩の村」の景観や生活は今まさに変わりつつある。本書を読み、再度「怡土・志摩の村」を歩き調査する若き研究者が現れることを期待したい。

本書の成果は、何より現地の人達の御協力による所が非常に大きい。聞き取り調査はほとんどアポ無しであったにもかかわらず、仕事中や忙しいなか丁寧に話をしてくれた現地の人達の温かさに何よりの感謝の意を述べたい。また、荘園研究者である早稲田大学の海老澤衷先生、福岡大学の西谷正浩先生の励ましも大きかった。福岡大学考古学研究室の武末純一先生、桃崎祐輔先生には何度か中世の研究会に呼んでいただき、貴重なアドバイスをいただいた。私と同じ比文修士課程の四條知恵氏、関隆造氏には忙しいなか原稿に目を通していただいた。さらに、城島印刷の仲西社長には本書刊行に際し、数々の御配慮をいただいた。これらの方々に記して感謝したい。

そして最後に、編者が修士課程に在籍した 2 年間（ゼミに行っていた学部 4 年生時も含めれば実質 3 年間）、指導教官の服部英雄先生には、公私に渡り多くの御指導・御教授をいただいた。興味関心が散漫で一つの研究に集中できない傾向のある私が、何とかこういう形で調査成果をまとめることができたのは、服部先生の御指導と励ましによる所が大きい。この場をかりて感謝の意を述べたい。

平成 21 年 1 月 17 日

楠瀬　慶太

（執筆者紹介）

楠瀬　慶太（くすのせ　けいた）
1984 年生まれ。
専攻―日本中近世史、日本村落史・都市史
現在―九州大学大学院比較社会文化学府修士課程
（主な著書・論文）
『新・韮生槇山風土記―高知県香美市域 120 人に聞いた村の歴史・生活・民俗―』花書院
「土師器食膳具から見た中世博多の土器様相」『九州考古学』第 82 号
「『限界集落』化の歴史的プロセスに見る山村の未来」『季刊　政策・経営研究』2009-Vol.1

浦谷　拓（うらたに　たく）
1978 年生まれ。
専攻―農村・農業地理学、離島・農業的土地利用研究
現在―九州大学大学院比較社会文化学府博士後期課程
（主な論文）
「耕作放棄地を地域活性化につなげよう」『九州大学ベンチャービジネスラボラトリー(VBL)の学生プロジェクト支援チャレンジ&クリエイティブ 2007 成果報告書』

木戸　希（きど　のぞみ）
1986 年生まれ。
現在―九州大学文学部人文学科歴史学コース

田中　由利子（たなか　ゆりこ）
1947 年生まれ。
専攻－日本近世史、村落・中小神社関係史
現在－九州大学大学院比較社会文化学府博士課程
（主な論文）
「近世領主の『国境』認識－黒田・鍋島の脊振弁財嶽国境争論から－」『比較社会文化研究』第 24 号

中村　和博（なかむら　かずひろ）
1985 年生まれ。
専攻―日本考古学
現在―経済産業省九州経済産業局総務企画部調査課
（主な論文）
「筑前国分寺における瓦の生産体制」『九州考古学』第 83 号

夏木　大吾（なつき　だいご）
1984 年生まれ。
専攻―考古学、旧石器時代・細石刃文化研究
現在―福岡大学人文学部歴史学科考古学専攻
（主な論文）
「九州の細石刃石器群からみた縄文時代草創期の諸相」『第 2 回　福岡大学・慶南大学・漢陽大学　三大学合同学術交流会』
「木舟・三本松遺跡の中世木棺墓出土沈子の分析」『七隈史学』11 号

馬場　多聞（ばば　たもん）
1983 年生まれ。
専攻―中世南アラビア史
現在―九州大学大学院人文科学府博士後期課程

前川　隆輔（まえかわ　りゅうすけ）
1985 年生まれ。
専攻―社会教育学
現在―九州大学大学院人間環境学府修士課程

山内　亮平（やまうち　りょうへい）
1987 年生まれ。
専攻―歴史考古学
現在―福岡大学人文学部歴史学科考古学専攻
（主な論文）
「糸島郡域における中世石塔の展開」『七隈史学』10 号
「福岡県糸島郡二丈町一貴山・前原市東地区の中近世石造物」『福岡大学考古資料集成』2（共著）